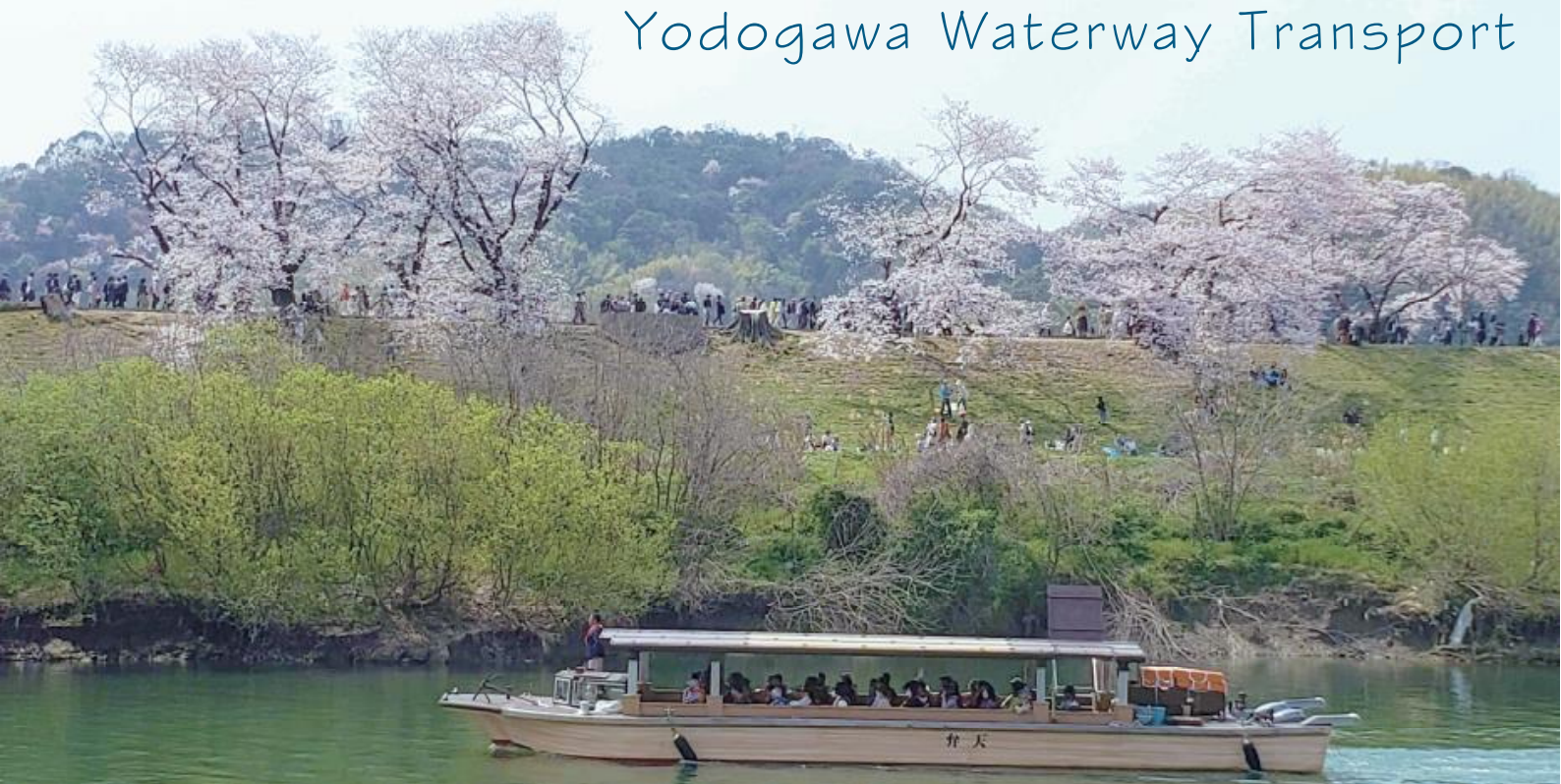


淀川の舟運

Yodogawa Waterway Transport



淀川舟運の歴史

舟運（しゅううん）とは、船を使って物資や人を輸送することです。昭和初期頃までの淀川の舟運は、大阪と京都を結ぶ人々の生活に欠かせない輸送の手段でした。

淀川舟運の歴史

大阪湾は、古墳時代に入り、中国大陸・朝鮮半島との関係が密接になると海外の文化や物資輸送の玄関となりました。江戸時代には、大阪と京都の伏見を結ぶ三十石船が往来し、舟運の拠点となった河岸（かし）※は人と物、情報や文化の交流の場として賑わっていました。

※河岸：大阪では浜（はま）と呼ばれていた。



江戸時代の舟運と街の姿を表した「淀川兩岸一覽」



対岸を結び人々の生活を支えた鳥飼の渡し

江戸時代までの舟運

京街道と平行して二十石船や三十石船が往来し、人の移動の手段として使われるとともに、全国の物資が大阪・京都に集積しました。枚方付近では、三十石船の乗客に向けて、小舟から飲食物を販売する「くらわんか舟※」が集まることで有名でした。河岸周辺には、枚方等の賑わいのある街が発展しました。

※くらわんか：「食らう」「食べないか」という意味



提供：枚方市教育委員会

江戸時代の大阪・京都を結ぶ三十石船と、漕ぎ寄せるくらわんか舟

昭和初期までの舟運

明 治時代には、淀川に蒸気を動力とした外輪船が出現し、昭和初期まで活躍しました。また、オランダ人技師のヨハネス・デ・レーケの協力のもと、水深を確保し、外輪船が航行しやすいよう、水の流れを集める水制工による低水工事が行われました。



ヨハネス・デ・レーケ



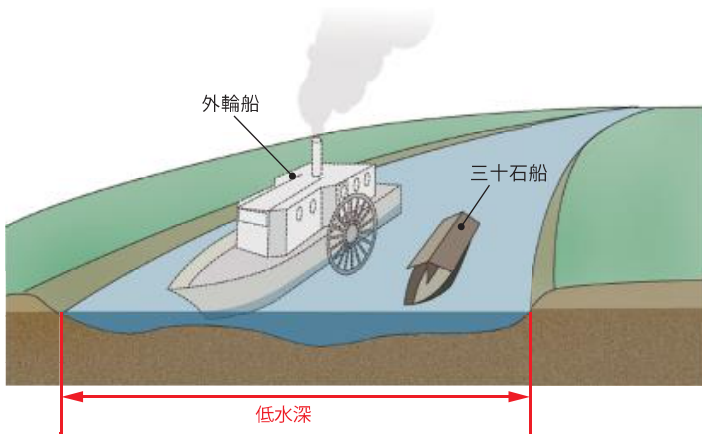
昭和初期の淀川を行く外輪船



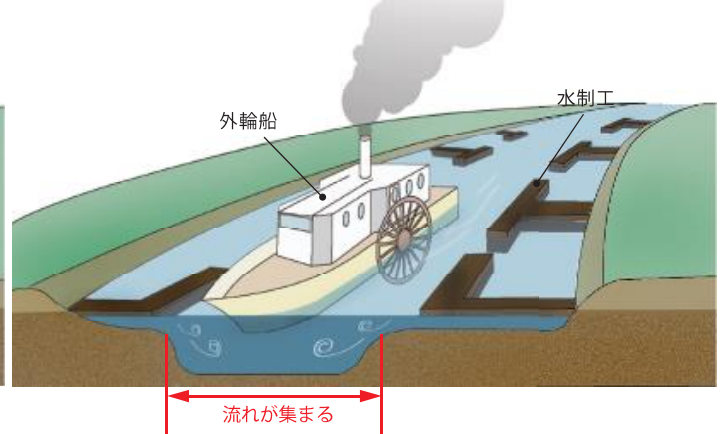
水制工による淀川低水工事

水制工のしくみ

水制工の整備前



水制工の整備後（水深の確保）



三十石船は水深が浅くても航行できましたが、外輪船は深い喫水を必要とするため、水深を確保する水制工が必要となりました。

舟運の衰退

陸 上交通網の整備が昭和初期頃から広がったことにより、舟運は徐々に人々の暮らしから遠ざかりました。しかし、兵庫県南部地震において舟運が活躍し、舟運を用いた防災の必要性が全国的に認識されました。現在では淀川の防災や観光の役割を担う重要な手段として見直されつつあります。



淀川の兩岸を繋ぐ阪急電車

舟運と防災

陸上の交通網が分断される地震等の被災時に、舟運を利用した復旧資機材の輸送等が行えるよう緊急用船着場や緊急用河川敷道路の整備を行いました。

平成7年1月 兵庫県南部地震発生

兵 庫県南部地震では、淀川沿川地域でも被害が発生し、人々の日常生活に支障をきたしました。淀川の堤防も損壊しましたが、復旧工事の際、台船や土運船を用いた土砂等の復旧資機材の輸送を行ったことにより、早期に復旧できました。



地震発生後の淀川の堤防



船舶を利用した復旧工事

平成30年6月 大阪府北部地震発生

大 阪府北部地震では、大阪府の一部地域で震度6弱を記録し、淀川沿川にも家屋倒壊やライフラインの麻痺等の多大な被害を及ぼしました。関西地方の複数の路線で鉄道の運行を見合わせたため、大阪市内を中心に多くの帰宅困難者が生じ、徒歩で帰宅する光景がみられました。



大阪府北部地震による渋滞と帰宅困難者（新淀川大橋）

これからの 災害時の舟運

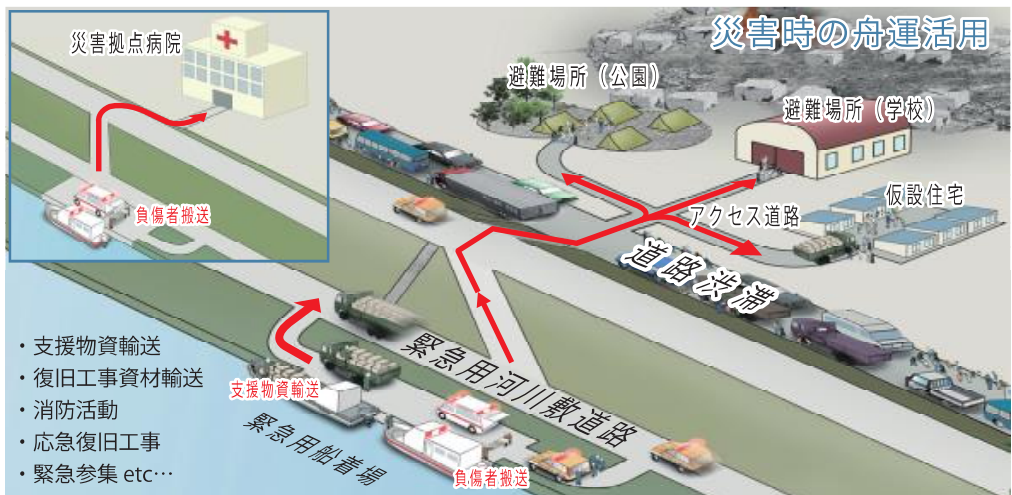
緊 急用船着場や緊急用河川敷道路は、堤防等の河川管理施設が被災した際、復旧に必要な資機材輸送や、人員を輸送するために活用されます。また、被災した地域の災害復旧に必要な資機材や支援物資の陸路による移動や輸送が困難な場合にも活用します。市街地が混乱している期間、舟運による災害対策が有効となります。



災害時を想定した物資輸送実験



緊急参集訓練

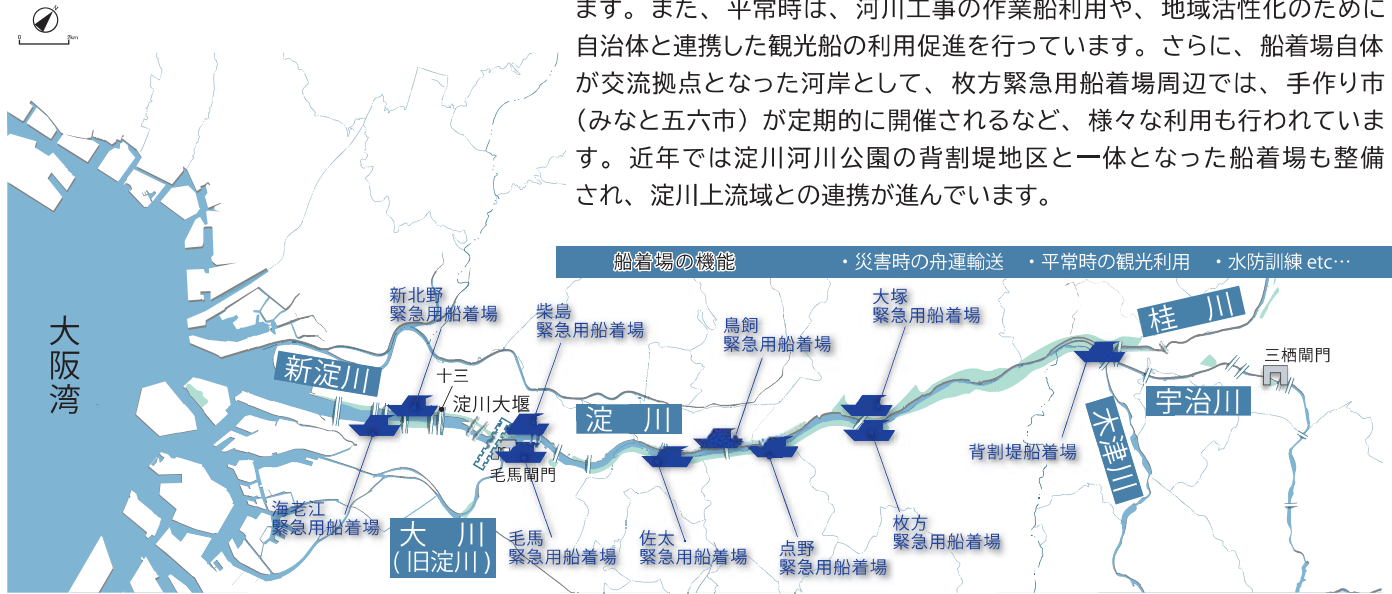


舟運復活の取り組み

淀川河川事務所では、淀川舟運の復活・活性化に向けて、自治体等と連携しながら、施設の整備や管理、調査等の取り組みを行っています。

船着場の整備と閘門の管理

淀川の船着場・閘門



淀川河川事務所では、平成7年の兵庫県南部地震以降、河口から枚方まで9箇所の緊急用船着場を整備しており、緊急用河川敷道路と連携して、災害時に船舶から人の乗降や物の荷役を行う際に利用します。また、平常時は、河川工事の作業船利用や、地域活性化のために自治体と連携した観光船の利用促進を行っています。さらに、船着場自体が交流拠点となった河岸として、枚方緊急用船着場周辺では、手作り市(みなと五六市)が定期的で開催されるなど、様々な利用も行われています。近年では淀川河川公園の背割堤地区と一体となった船着場も整備され、淀川上流域との連携が進んでいます。

毛馬閘門

閘門とは、水位差のある水面を船舶が航行できるように水位差を調整する施設です。明治18年の大洪水をきっかけに、政府は明治29年より淀川の大改修工事を開始しました。この改修では、人口の集中する大阪市内を流れる大川(旧淀川)へ流入する水を調節するため、毛馬洗堰を整備し、かつ、船舶が大川・淀川間を航行できるように毛馬閘門を併せて整備しました。現在の閘門は昭和49年に新造されたもので、初代は重要文化財に指定され、淀川河川公園内に保存されています。

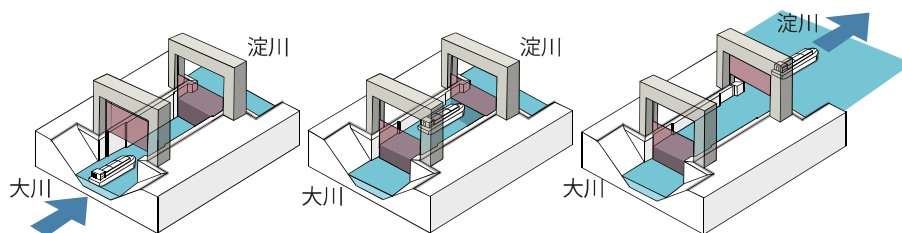


旧毛馬閘門



淀川と大川を結ぶ毛馬閘門

閘門の仕組み



- 1 水位の低い大川から淀川へ進入する場合、まず大川側のゲートを開き、閘門に進入します。
- 2 大川側のゲートを閉じた後、閘門内と淀川を同じ水位に調整します。
- 3 淀川側のゲートを開き、淀川に進入します。



閘門内で待機する船舶

淀川の船着場

現在、淀川には9つの緊急用船着場が整備されています。緊急用船着場は300t積みクラスの台船や、土運船が利用できるよう整備されており、災害時には多くの物資や人を輸送できます。また、淀川河川公園背割堤地区には、さくらまつり等で船舶を用いたイベント時に、観光客が乗船できるよう、背割堤船着場も整備されています。

公園と一体となった船着場（背割堤船着場）



完成年月：平成28年3月
 船着場規模：40m×2～2.5m（延長×幅）
 所在地：八幡市八幡在応寺地先
 （宇治川左岸37.2km付近）
 アクセス：京阪八幡バス停から徒歩13分

緊急用船着場

海老江緊急用船着場



完成年月：平成16年3月
 船着場規模：70m×13m（延長×幅）
 所在地：大阪市福島区海老江3丁目地先
 （淀川左岸5.1km付近）
 アクセス：上海老江バス停から徒歩10分

新北野緊急用船着場



完成年月：平成13年2月
 船着場規模：60m×8m（延長×幅）
 所在地：大阪市淀川区新北野2丁目地先
 （淀川右岸6.3km付近）
 アクセス：新北野三丁目バス停から徒歩5分

柴島緊急用船着場



完成年月：平成15年7月
 船着場規模：70m×10m（延長×幅）
 所在地：大阪市東淀川区柴島2丁目地先
 （淀川右岸10.3km付近）
 アクセス：柴島バス停から徒歩18分

毛馬緊急用船着場



完成年月：平成10年3月
 船着場規模：60m×7.5m（延長×幅）
 所在地：大阪市都島区毛馬町4丁目地先
 （淀川左岸10.5km付近）
 アクセス：桜宮高校バス停から徒歩8分

佐太緊急用船着場



完成年月：平成12年3月
 船着場規模：70m×10m（延長×幅）
 所在地：守口市佐太西町1丁目地先
 （淀川左岸17.6km付近）
 アクセス：五番バス停から徒歩10分

鳥飼緊急用船着場



完成年月：平成12年3月
 船着場規模：70m×10m（延長×幅）
 所在地：摂津市鳥飼下1丁目地先
 （淀川右岸19.6km付近）
 アクセス：鳥飼下一丁目バス停から徒歩8分

点野緊急用船着場



完成年月：平成12年3月
 船着場規模：70m×10m（延長×幅）
 所在地：寝屋川市点野1丁目地先
 （淀川左岸21.3km付近）
 アクセス：太間口バス停から徒歩11分

大塚緊急用船着場



完成年月：平成13年3月
 船着場規模：70m×10m（延長×幅）
 所在地：高槻市大塚町3丁目地先
 （淀川右岸26.0km付近）
 アクセス：枚方大橋北詰バス停から徒歩6分

枚方緊急用船着場



完成年月：平成8年3月
 船着場規模：35m×2.2～8.5m（延長×幅）
 所在地：枚方市堤町地先
 （淀川左岸26.0km付近）
 アクセス：枚方公園口バス停から徒歩8分

河川の水深調査

日 常の河川巡視の際に水深を随時確認しています。また、詳細な水深調査も行い、航行困難な箇所の対策を検討しています。

日常の水深確認



巡視船



日常の水深確認結果

詳細な水深調査



詳細な水深調査結果

河川の浚渫

上 流から土砂が流れ、河川に土砂が堆積すると水深が浅くなり、船舶の航行が困難となります。そのため、浅くなった川底の土砂を取り去る浚渫を行い、船舶の航路を維持しています。なお、浚渫の実施は、洪水を安全に流すことにも繋がります。



土砂の浚渫

水制工の設置

船 船舶の安全な航行確保にも資する水制工を新たに設置し、恒常的に水深を確保する対策を講じています。水制工がないと水深が維持できず、船舶の航行に支障が生じます。この水制工周辺では航路が確保されていることが水深調査でも確認されています。



淀川を遡上する船舶



水制工の位置



水制工

新たな船着場の検討

災 害時のさらなる機能向上や、低水路巡視等の維持管理における利便性向上等のための新たな船着場の整備に向けて、現地調査や社会実験等を行うなど検討を進めています。



伏見での船着場仮設実験

舟運に関する勉強会の開催

淀 川沿川の自治体、及び舟運事業者を交えた勉強会を開催しています。勉強会には、学識者や他河川の舟運事業者も招き、舟運事業の現状や、今後のあり方について、自治体や舟運事業者とともに理解を深め、淀川の舟運の活性化に向けた取り組みに活かしています。



勉強会



意見交換会

官民一体の舟運事業

災害時の河川管理施設の復旧や沿川の支援を円滑に行うためには、平常時に淀川舟運が機能していることが重要です。自治体や民間事業者と連携した社会実験等を通じて、舟運の活性化に向けた取り組みを続けています。

社会実験等による 情報発信と検討

淀川沿川の自治体や民間事業者等と連携した社会実験等を行い、市民参加による平常時の利用促進に向けた課題の抽出と、市民への舟運に対する認知度の向上を行っています。淀川舟運は、大阪・京都観光の新たなツールの一つとして、地域観光の活性化や賑わい創出に寄与できると考えられます。

淀川舟運歴史文化発見クルーズツアー 2019年11月23、24日



河口周辺の試験乗船会 2017年12月5日



現在の淀川舟運

淀川沿川では、民間事業者を中心に、各地域の観光資源と組み合わせた様々な観光舟運が行われています。また、平常時の河川工事での土砂や資機材の運搬、河川巡視や河川調査等に舟運が活用されています。

定期運航の開始

これまで、大阪市内と枚方を結ぶ観光舟運は不定期に行われていました。淀川河川事務所では、社会実験や河川の情報発信等を通じて、民間事業者の定期運航の実現を支援しました。そして、平成29年9月より、大川の八軒家浜船着場（大阪中央区）と枚方緊急用船着場を結ぶ定期運航が始まり、淀川舟運の復活が一つの節目を迎えました。



定期運航開始を祝う人々



定期運航船

淀川沿川の様々な観光事業

大川の八軒家浜から枚方周辺や、河口から新淀川といったルートで、様々な船舶を利用した観光舟運が行われています。大型船で淀川の歴史を聴きながら、風景や食事を楽しめるプラン、小型船で大阪市内の街並みを楽しめるプラン、花火大会等の季節限定のイベントと組み合わせるプラン等が行われています。また、地球温暖化の原因となる温室効果ガスを排出しない、リチウムイオン電池を動力とした船も航行しています。一般的な動力船よりも静かな航行を楽しむことができます。



淀川沿川で航行する様々な船舶

背割堤での花見船運航

民間事業者と淀川河川公園が連携した舟運の取組みも活発化しています。毎年3月～4月にかけて、淀川河川公園背割堤地区では、背割堤船着場を活用したお花見クルーズが開催され、多くの観光客が航行を楽しんでいます。



背割堤さくらであいクルーズ

河川工事での舟運の活用

平常時は、堤防や橋梁等の河川工事に使用する土砂や資機材、浚渫土等の運搬に舟運が活用されています。また、河川巡視や船舶での河川調査、工事の警戒船停泊等にも緊急用船着場が利用されています。



海老江緊急用船着場での河川工事

これからの淀川舟運

大阪市内の河川、京都の宇治川といった水辺は、世界中から集まる観光客により賑わいを見せています。淀川と大阪市内、京都方面を繋げることで、災害時の広域的な緊急輸送ネットワークを構築するとともに、平常時の観光舟運の利用を促進します。

淀川の魅力

淀川と沿川地域には、たくさんの魅力的な資源があります。これらの魅力と連携していくことが、淀川舟運と地域の活性化に繋がります。

美しい景観

淀川には、水制工の名残りである「わんど」や河口部の干潟、河口の夕日等、自然環境を満喫できる場所が点在しています。



水制工が作り出した「わんど」



多くの生き物が利用する十三干潟

歴史的史跡

毛馬閘門、鍵屋資料館、橋本の渡し跡、伏見港公園、寺田屋、濠川と宇治川を結ぶ三栖閘門等、大阪・京都を結ぶ淀川沿川には歴史的史跡が数多くみられます。



橋本の渡し跡・橋本宿



伏見地区の寺田屋



伏見港公園

観光都市

大阪・京都は、多くの訪日外国人観光客が訪れる世界的な観光都市です。都市を流れる大川や道頓堀川、琵琶湖疎水等は古くから舟運に利用されています。現在でも大阪天神祭といった水に関わる伝統的な祭りもあるなど、舟運の活性化に利用できる資源を豊富に有しています。



大川 中之島の夜景

淀川全域につながる舟運



現在、新淀川から淀川へ直接進入することはできず、枚方より上流への定期的な運航もありません。新淀川から淀川大堰を経由した上流へのルートを整備することで、災害時に陸上交通と併せ、大阪・京都の広域的な緊急輸送ネットワークの構築が可能となります。そのため、航路の確保、淀川大堰閘門等のインフラ整備の調査・計画に取り組んでいます。なお、平常時には淀川と、大阪市内の河川や京都方面が繋がることで、広域的な観光舟運の利用も促進されます。

世界とつながる舟運 (大阪・関西万博)

淀川河口から近い夢洲にて、「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)」開催が決定しました。開催に伴い、国内外からより多くの観光客が大阪・京都を訪れることが予想されます。大阪・関西万博と連携して、イベントや定期運航等の様々な舟運を体験してもらい、淀川舟運の魅力を世界中に発信します。



提供：経済産業省

大阪・関西万博会場イメージ

淀川沿川マップ



国土交通省 近畿地方整備局
淀川河川事務所
 〒573-1191 枚方市新町 2-2-10
 TEL.(072)843-2861 ~ 8



淀川河川事務所 YOUTUBE



淀川河川事務所 facebook
 アカウント：国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所
 ユーザーネーム：@yodogawa.mlit



淀川河川事務所 ホームページ

<http://www.kkr.mlit.go.jp/yodogawa/>



淀川河川公園 ホームページ

<https://www.yodogawa-park.go.jp/>



国土交通省 川の防災情報

<http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/i-index.html>